

# 『文化観光懇談会』 中間的報告

平成18年8月

# 文化観光懇談会の概要と開催状況

## 【開催趣旨】

○現在、国土交通省では、観光立国実現のため国際競争力ある観光地づくりやビジット・ジャパン・キャンペーンを通じた日本の魅力の世界への戦略的発信に取り組んでいる。

○観光による交流を単に一回限りの異文化との出会いにとどめることなく、より深い相互理解につなげていくためには、我々日本人の日本の歴史や文化への理解を深めるとともに、外国人の視点をも取り入れて文化観光資源を発掘・活用し、それらを多くの旅行者に、好みに応じて触れ・体験できるようにすることが重要と考えられる。

○こうした観点から、国土交通省では、「文化観光懇談会」を設置し、文化観光の振興について検討を行うこととした。

## 【メンバー】

(座長) 赤坂憲雄 民俗学者・東北芸術工科大学教授  
岩井國臣 参議院議員・国土交通副大臣(第1回まで)  
梶原 拓 前全国知事会会長・前岐阜県知事  
神崎宣武 民俗学者・旅の文化研究所所長  
清水慎一 (株)ジェイティービー 常務取締役事業創設本部長(第2回～)  
千歳 栄 民俗史家・千歳建設会長  
中沢新一 宗教学者・多摩美術大学芸術人類学研究所所長  
中西 進 比較文学者・京都市立芸術大学長  
政所利子 (株)玄 代表取締役(第2回～)  
柴田耕介 国土交通省大臣官房総合観光政策審議官(第2回～)  
(顧問)河合隼雄 臨床心理学者・文化庁長官

## 【開催状況】

### 第1回

日時：平成17年7月14日(木) 14:00～16:00

議事項目：1. 文化観光の意義について  
2. 文化観光に関するプロジェクトについて  
3. 今後の進め方について

### 第2回

日時：平成17年12月8日(木) 14:00～16:00

議事項目：1. 当面の文化観光に関するプロジェクトについて  
2. 「わたしの旅100選」選定結果について  
3. 文化観光懇談会の今後の進め方について

### 第3回

日時：平成18年6月14日(水) 10:00～12:00

議事項目：1. 平成17年度に実施した文化観光に関するプロジェクト等の結果について  
(1) 日本の庭園から日本人の美意識・自然観を学ぶモデルツアー  
(2) 文化観光の集い ～違いを認める文化～  
(3) その他  
2. ケーススタディ：文化観光ガイドの実践例  
NPO法人 遊悠舎京すずめ 土居理事長



## 文化観光懇談会中間的報告

○観光立国を実現するため、国際競争力ある観光地づくりやビジット・ジャパン・キャンペーンの展開等を推進してきた結果、近年、海外から日本への来訪者数が着実に増加している。

○そうした中、より多くの海外からの訪問者に日本の風土、文化、また歴史に直に触れ、より深く・適切に日本を知ってもらうことが国際相互理解や友好親善のうえからも重要であるとの認識が高まっている。

○一方、そもそも海外からの多くの訪問者を迎えるにあたり、日本について紹介するためにも日本人一人一人が自らの風土、文化、また歴史に対する認識や理解を深めることにより、自らのアイデンティティーを再確認し、地域や日本の魅力の発信力を強化することが重要との認識も高まっている。

○こうした認識に立ち、本文化観光懇談会では、「日本人自身の日本の歴史や文化への理解を深めるとともに、外国人の視点をも取り入れて文化観光資源を発掘・活用し、それらを多くの旅行者に、好みに応じて触れ・体験できるようにすること」を目的に、平成17年7月以来3回の懇談会で文化観光の進め方について自由な意見交換を行い、議論を深めた。

○さらに、これら本懇談会委員の議論を踏まえ、日本の風土、文化、また歴史を内外に発信するための試みを実施した。

- ・日本の庭園から日本人の美意識・自然観を学ぶモデルツアー実施
- ・文化観光シンポジウム「文化観光の集い ～違いを認める文化～」開催
- ・文化庁が公募した「わたしの旅」プランを活かしたモデルツアー実施、リーフレット等作成・配付

○今後ともこうした試みを継続することによって、旅行者の関心や知識の程度に応じつつ、我が国の風土、文化、また歴史に係る由来、考え方、慣習、歴史的意義などをわかりやすく解説しつつ日本そのものを理解してもらうための文化観光を振興することが、観光立国を進めるうえで不可欠であるとの共通認識に至っている。

○また、日本文化の特色として、懇談会等で述べられたキーワードとしては、

- ・「違いを認める文化」
- ・「多様性を許容する文化」
- ・「多宗教・多宗派を許容しつつ、それらに基づく文化」
- ・「生活の中に息づく文化」
- ・「自然や祖霊を敬う精神文化」
- ・「多文化の融合（フュージョン）としての所産」
- ・「極められた繊細さ」
- ・「わび・さびのように研ぎ澄まされた美意識」
- ・「非相称性」
- ・「軽快性」
- ・「小綺麗さ」

などがあつた。

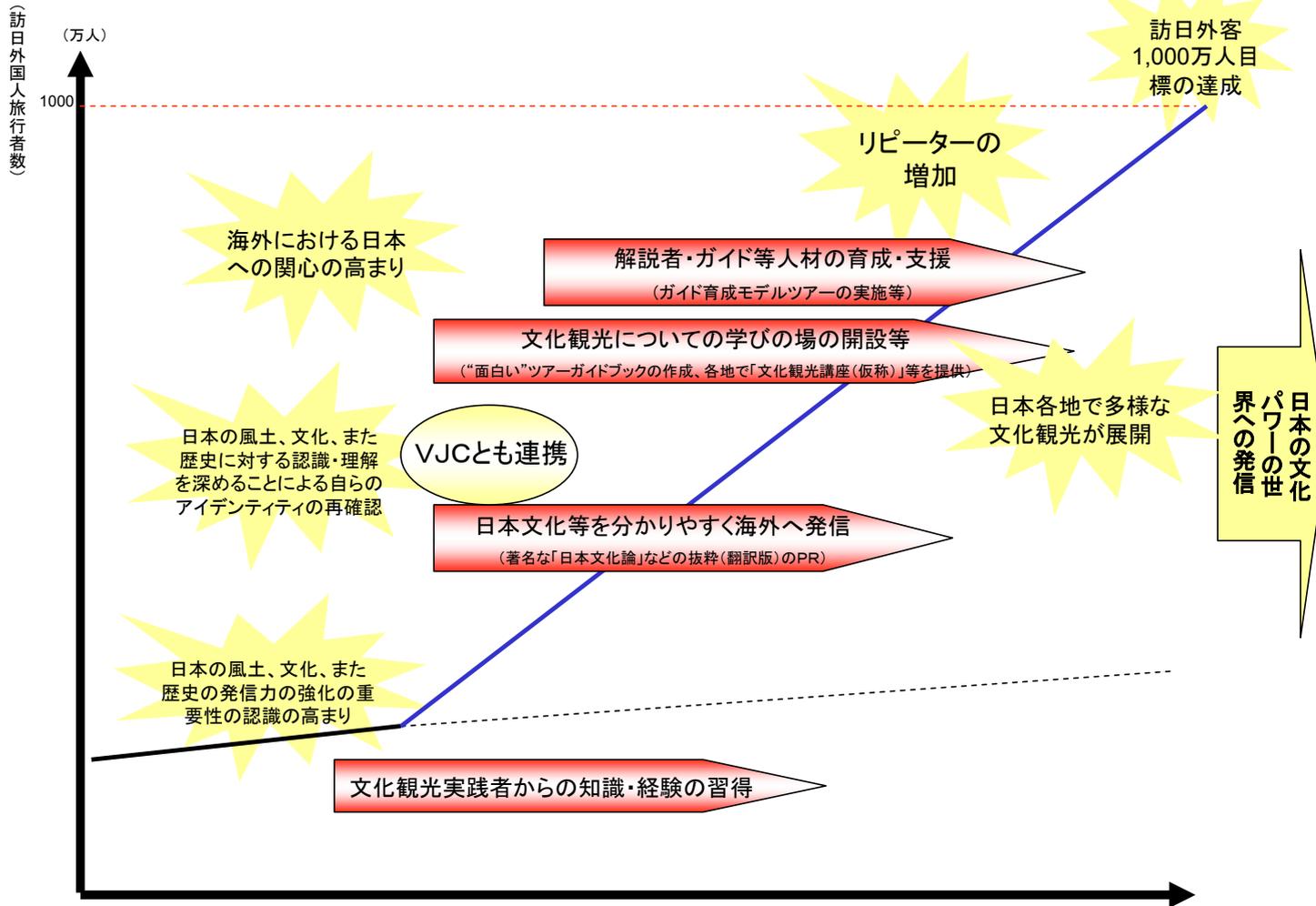
こうしたキーワードを集成しつつ、それらを活用し適宜に具体的な自然、空間、場、作品、生活等に即してわかりやすく解説することの重要性と難しさも指摘されたところである。

○これらを踏まえ、今後、本文化観光懇談会としては、文化観光を実践している人々から、その知識・経験を聴取するとともに、そうした人材の育成・支援、文化観光を学ぶ場の開設等や日本文化の発信力強化のための方策を探っていくこととしたい。

例えば

- ・ガイド育成モデルツアーの実施
- ・各地での文化観光講座（仮称）提供
- ・日本の文化をわかりやすく海外に伝える著名な「日本文化論」などの一部抜粋（翻訳版）を日本PR冊子の中で紹介
- ・地域の文化をわかりやすい物語で紹介する冊子（今までと全く違ったガイドブック）の刊行の検討
- ・地域における文化観光推進体制の検討  
etc.

# 文化観光の展開と観光立国の推進イメージ



# 参 考 资 料

# 文化観光懇談会提案プロジェクト1

## 【日本の庭園から日本人の美意識・自然観を学ぶモデルツアー】

日本の庭園から日本人の美意識・自然観を学ぶモデルツアーの実施結果について

- ・ 日程：平成 18 年 3 月 6 日（月）～ 3 月 7 日（火）
- ・ 場所：京都市（上賀茂神社、龍安寺など）
- ・ 主催：国土交通省 協賛：文化庁・京都市
- ・ 開催目的

異文化で育った人々に、より深く日本文化を伝える糸口や方法を探るため、河合隼雄文化庁長官、VAN TONDER GERT JAKOBUS 京都工芸繊維大学助教授、矢ヶ崎善太郎京都工芸繊維大学助教授から英語による解説等を行うとともに、その質疑の状況を記録にとどめ、今後、今回視察した箇所を含め広く日本の文化を外国人にも伝える基礎資料とするため外国人を対象とした「日本の庭園から日本人の美意識・自然観を学ぶモデルツアー」を実施。

### ・ 開催概要

#### ◆ 行程

3月6日（月）

時間	内容
12:30	京都駅 集合
12:50	講義：「京都市内の全体像・まちづくりの考え方」について (京都駅ビル 大空広場)
13:20	京都駅発
14:00	上賀茂神社一 神社の解説、講義
15:30	上賀茂神社発
15:40	社家町一 社家町の解説・講義、西村家の解説、梅辻家の解説
16:30	社家町発
17:00	宿泊先「京都ロイヤルホテル&スパ」着
17:30	意見交換会：「日本人の美意識や自然観等」について
18:30	ホテル発
19:30	夕食会（京町屋「富田屋」）

3月7日（火）

08:30	龍安寺 一龍安寺の解説・講義
10:45	昼食会（西源院）
12:15	龍安寺発
13:00	京都駅解散

#### ◆ ツアーガイド

- コーディネーター：河合 隼雄（文化庁長官）
- ツアーガイド：VAN TONDER GERT JAKOBUS（京都工芸繊維大学助教授）  
矢ヶ崎善太郎（京都工芸繊維大学助教授）

#### ◆ 参加者

- 20人（アイルランド、アメリカ、イギリス、インドネシア、ウクライナ、カナダ、韓国、セルビアモンテネグロ、台湾、中国、バングラディッシュ、フィリピン、フランス、香港）



#### ◆ 参加者アンケート概要

参加者からは「新しい切り口を用いた本ツアーに対して大変興味や満足を覚えた」など、日本文化の理解と新たな側面の発見に大いに役立つ有意義なツアーであったという意見が多く出された。

同時にこの種のツアーを実行する際の課題や注意点も多く指摘され、「ツアーの目的を明確化させるための解説のあり方」「時間配分」「ターゲットの絞り込み」「ディスカッションの必要性」など、今後の文化観光ツアーの展開に向けて非常に参考となる改善点や要望も上げられた。

さらに、文化観光ツアーの意義として「異なる文化と国民を理解するための非常に効果的なツールとなる」「日本文化と日本人をさらに深く理解したいと考えるきっかけとなった」などの指摘もあった。

# 文化観光懇談会提案プロジェクト2

## 【文化観光の集い ～違いを認める文化～】

文化観光シンポジウム「文化観光の集い ～違いを認める文化～」の  
開催結果について



- ・ 日時:平成 18 年2月 18 日(土) 13:30 ～ 16:30
- ・ 場所:奈良公園シルクロード交流館 会議室
- ・ 主催:国土交通省・奈良県
- ・ 開催目的

県及び市町村観光担当課、観光協会の職員、観光ガイド、また歴史学・民俗学研究者や寺社関係者など、広く歴史や文化に携わる方々を対象として、文化観光に対する理解の増進を図るため、日本文化の根底に流れる「違いを認める文化」について分かりやすく解き明かす基調講演を中心として、文化観光の推進の現代的意義や今後の文化観光のあり方等について有識者による意見交換を行う『文化観光の集い』を開催。



### ・ プログラム

- 13:00 開場
- 13:30 開会
- 13:30～13:35 挨拶 柴田 耕介 (国土交通省総合観光政策審議官)
- 13:35～15:05 【基調講演】  
(13:35～14:05)
  1. 違いを認める文化について  
講師:岩井 國臣 氏(参議院議員、前国土交通副大臣)  
(14:05～15:05)
  2. 華厳思想—古代奈良国家の理想と現代におけるその意義  
講師:津田 真一 氏(国際仏教学大学院大学 教授)  
(15:05～15:35)
  3. ころの観光  
講師:高野 浩二 氏(元近畿圏整備本部調査官)
- 15:35～15:45(休憩)
- 15:45～16:30 【講演者による鼎談】
- 16:30 閉会

### ・ 出席者:49名

国土交通省文化観光懇談会委員、県・市町村観光担当課、観光連盟・協会、社寺、ボランティアガイドなど

### ◆参加者アンケート概要

一部には、「有益であった」との声もあったが、「非常に難しかった」、「理解できなかった」、「文化観光の集いの本来の趣旨からかけ離れているのではないか」との意見が多かった。

# 「わたしの旅100選(文化庁)」を活かした観光の展開

## 「わたしの旅」を活かす検討委員会

### ●目的

選定された「わたしの旅」プラン等をヒントに、新しい旅行商品を企画していくための方策、ビジット・ジャパン・キャンペーン等を通じた内外への積極的な情報発信等について検討。

### ●検討委員会メンバー

国土交通省、文化庁、(社)日本旅行業協会、(社)全国旅行業協会、JNTO、VJC事務局



## モニターツアーの実施

### ●特別賞『ひな街道を行く』モニターツアーの実施

実施日：平成18年3月23日～25日

参加者：一般参加者10名、旅行会社16名、(社)日本旅行業協会2名 計28名

「庄内ひな街道シンポジウム」開催(国土交通省、文化庁、関係自治体等後援)後山形県酒田市・鶴岡市、新潟県村上市の「ひな人形」に係る観光素材を視察

## 「わたしの旅」応募プランを活かしたリーフレット等の作成、配付

### ●「わたしの旅」応募プランに係る照会先等を記載しこれが組み込まれた旅行商品を紹介するリーフレットの作成・配付。

部数：10,000部

配布先：都道府県、関係市町村、旅行会社、国際観光振興機構、地方運輸局、文化庁等

(「わたしの旅100選」と同一コースではなく、その一部が組み込まれたもの。)



◆「わたしの旅」提唱者である小泉総理が河合長官と「わたしの旅」受賞プランを利用して平成18年5月に石川・富山を訪問